

第24回日本・スペイン・シンポジウム 共同座長による最終報告書

1 シンポジウム

第24回日本・スペイン・シンポジウムは、2024年10月23日、香川県高松市において開催された。日本側から深澤陽一外務大臣政務官等が、スペイン側からマルティネス外務・EU・協力省外交・グローバル問題担当長官等が出席した。

今次シンポジウムは、「日本とスペインのグローバルな協力の姿を求めて」をテーマに、「国際社会の平和と安定に向けた取組」、「セッション2：グローバル市場での日本とスペインのビジネス協力」、「セッション3：文化・芸術・建築交流」をテーマに3つのセッションを設け、パネル・ディスカッションを実施し、自由で活発な意見交換が行われた。

今回のシンポジウムでの議論を通じ、両国政府間の関係に加えて、本シンポジウムを含む様々な関係者間の協力が進展し、官民双方における二国間関係が強化され、具体的な成果を生み出すことを期待する。

2 日本とスペインの関係

共同議長として、最近の日スペイン関係の進展を振り返るとともに、シンポジウムにおける議論を踏まえ、次のとおり両国関係を展望する。

【国際社会の平和と安定に向けた取組】

ロシアによるウクライナ侵略は今なお続き、中東情勢も一層不安定化する中、国際社会の平和と安定をどのように確保し、経済的繁栄の環境を整えるかについて議論した。欧州・大西洋とインド太平洋の安全保障は今や完全に不可分であり、国際社会が結束してウクライナ支援と対露制裁を継続すること、ロシアによる北朝鮮製弾道ミサイルの取得及びそのウクライナへの使用を非難すること、また、一方的な現状変更の試みに連携して対応していくことが重要であるとの認識で一致した。さらに、東シナ海及び南シナ海における力又は威圧による一方的な現状変更の試みについての深刻な懸念を共有した。加えて、国際社会の分断や対立が深まる中で、また、海賊、テロ、核軍縮・不拡散や大量破壊兵器の拡散、自然災害等の様々な種類と烈度の脅威や課題に対応するためには、いわゆる「グローバル・サウス」と呼ばれる途上国・新興国と一体となって諸課題に対応する必要がある、そのような点について日本とスペインとの間の対話を深める必要があるとの認識で一致した。

また、これらの課題の解決にあたって、パワーバランスの変化に伴い生じてきたグローバル・ガバナンスの変化は、考慮すべき非常に重要な要素であることで一致した。さらに、既存の多国間枠組みが困難に直面する中、日本とスペインのような同盟国・同志国同士が連携していくことの重要性も増大しているという問題意識を共有した。

【グローバル市場での日本とスペインのビジネス協力】

日本企業とスペイン企業との間でグローバル市場を見据えた連携が期待される分野として、グリーン分野とインフラ分野の2分野について、両国及び世界の現状認識、グローバル市場への展開をどう進めていくか等、豊富な話題を議論した。

グリーン分野では、市場にそれぞれの国の企業が参入し、各々が有する優位性を発揮して両国経済の成長に繋がっているとの共通認識を得た。また、脱炭素化を進めていかなければならない中、経済安全保障、インフレ等の観点から再エネの導入拡大に向けた難しい局面にある現状を理解する一方、企業が有するノウハウや知見の活用、金融システムのレベル向上等を図っていく必要があるとの示唆があり、今後も両国企業間での更なる協力可能性を確認した。

インフラ分野では、両国が抱える課題として挙げられる生産性向上や労働環境改善というテーマにも焦点を当て、マネジメント側の苦悩、また、足元では当該課題を解消するためのサービスが出てきている現状を共有した。グローバル・サウス等も含めてインフラ需要の高い地域において、現場レベルでの課題解決型の新しい両国企業間協力の可能性について示唆があり、今後の進展を期待する。

【文化・芸術・建築交流】

本シンポジウム開催地である香川県高松市とスペインは、いずれも文化・芸術・建築分野における取組が盛んな土地である。香川県では、瀬戸内海の島々に現代アート作品が点在しているほか、高松市の香川県庁舎（丹下健三設計）や直島町の地中美術館（安藤忠雄設計）など、著名な建築家による建築物が多数存在している。また、高松市の中心部には、国の特別名勝に指定されミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで最高ランクの3ツ星を獲得した大名庭園「栗林公園」が存しており、こうした文化遺産や現代アートを活用した地域活性化に取り組んでいる。また、スペインのサグラダ・ファミリア、アルハンブラ宮殿、ビルバオ・グッゲンハイム美術館は、ほんの一例ですが、日本人にも非常に人気があります。

本シンポジウムでは、アート・建築を活用した地域活性化やインバウンド観光振興について議論し、芸術を地域観光促進につなげる事例、芸術と科学の融合による海洋環境への対処の事例、文化を通じた人材育成の事例等について、グッドプラクティスを共有しあった。また、芸術・建築等を通じた二国間協力を一層促進していくことの重要性について、認識を一致した。

3 結語

今回のシンポジウムで、日本とスペインとの間で幅広い分野に関する意見交換が行われたことは、日本とスペインが2018年に発出した「戦略的パートナーシップ」に基づいて協力関係を一層深化させる契機となった。

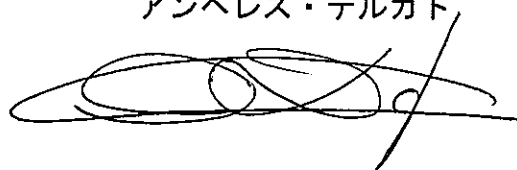
最後に、今回のシンポジウムを開催するに当たって、両国の政府及び関係機関から示された協力と支援に感謝する。

2024年10月23日

日本側座長
佐藤義雄

佐藤義雄

スペイン側座長
アンヘレス・デルガド

A stylized, handwritten signature in black ink, consisting of several overlapping loops and a long horizontal stroke extending to the right.